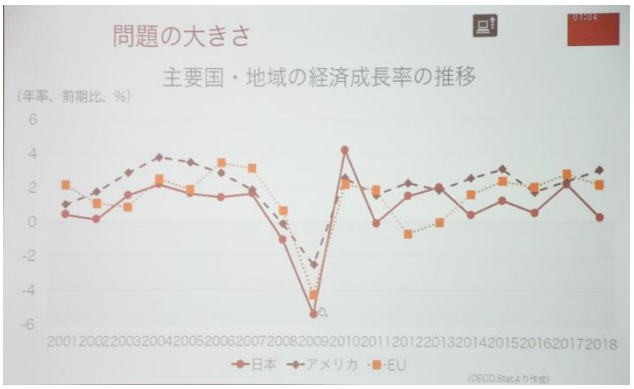
2020年度文系チャレンジ講座（第5回）を実施しました

9月30日（水）に経済学部の江原慶先生を講師に迎え、「10年くらい前の話：2008年世界金融恐慌」というテーマで、文系チャレンジ講座の第5回を実施しました。遠隔配信した大分商業、国東、竹田、臼杵、安心院、大分西、大分鶴崎、別府翔青、中津南、三重総合と来学した大分の11校216名が受講しました。

今回の授業は，新型コロナウイルスが経済に与える影響がたびたびリーマン・ショック級だと例えられることを起点にし，そのリーマン・ショックは一体どのようなものだったのかを明らかにしていくものでした。2008 年は今の高校2年生が小学校入学前です。当時の時代背景をイメージするため，2016年に公開された映画『ラ・ラ・ランド』でのワンシーンを紹介し，サブプライムローンの特徴や，リーマン・ショックが引き起こされた経緯を紹介された。リーマンブラザーズの倒産に対して救済融資がなされず，金融市場がパニックとなり世界同時株安になったが，サブプライムローンは住宅問題だけでなく，今につながる2つの問題を引き起こした点についても言及されていました。1つは移民・人種問題が顕在化されたことによる「グローバルシティ」の危機，もう1つは，国際資金循環の危機（各国で非伝統的な金融政策が発動されるようになるなど）です。

講義のなかで印象的だったのは，グラフから実際の数値を読み取りながら考察するということです。事実に基づいた主張をすることが学問における必須条件ですが，そうした作業がいかに大切であるかを体験できたことは貴重な経験となったようです。



最後に，講義で紹介した内容は受講生が理解に努力を要する事項が数多く存在していたことにも触れられ、そうしたものに時間をかけて向き合っていく場こそが大学であると高校生にエールを送られました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（95%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（96%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（99%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（96%）、「映像はよく見えた」（97%）という結果が出ました。